

高知大学医学部医学科同窓会会報

やまもも

高知大学医学部医学科同窓会
会長 廣瀬 大祐
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
TEL:088(866)0034
FAX:088(866)0065
dosokaij@kochi-u.ac.jp
http://www.kochi-ms.jp

第 38 号

令和 6 年度高知大学医学部医学科同窓会総会のご案内

同窓会の皆様、日頃より同窓会の運営につきましてご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。
コロナ禍により、これまで制限をされていた社会活動が徐々に緩和され本学同窓会においても4年ぶりに従前同様の総会を7月27日(土)に下記のとおり開催いたします。

議題は、同窓会会長選挙、令和5年度事業報告や会計決算報告、令和6年度事業計画(案)や会計予算(案)後、特別講演会(医学部長 井上啓史先生(6期生)、石井洋介先生(27期生))、懇親会となります。

なお、懇親会は、卒期の制限は撤廃し自由参加としておりますので、ご多忙中とは存じますが旧友とお誘いあわせの上、是非ご出席ください。

総会ご出席のお返事は下記用紙を利用し、メール又はFAXにて7月12日(金)までにお申し込みください。

メール：dosokaij@kochi-u.ac.jp FAX：088-866-0065

記

同窓会総会

- 開催日時：令和6年7月27日(土曜日)
- 総会：午後5時半～
- 講演会：午後6時～
- 懇親会：午後7時～(会費：卒後3年目以降5,000円)
- 開催場所：OMO7 高知3F(旧ホテル日航高知旭ロイヤル) 高知市九反田9-15
- 会費：卒後3年目以降5,000円

令和6年度同窓会総会の出欠表

【総会7月27日(土)】

総会：ご出席、ご欠席

氏名 会員番号 S・H・R 年卒業

メールアドレス：

ご出欠のお返事は、メール dosokaij@kochi-u.ac.jp 又は FAX:088 - 866-0065 により7月12日までにご連絡ください。

《会長挨拶》



アニバーサリー・開学 50 周年

高知大学医学部医学科同窓会

会長 廣瀬 大祐（第 6 期卒）

私ごとですが、今年 60 歳・還暦を迎えます。人生の節目としては定年のほうが生活リズムも変わり大きとは思いますが、開業しているため定年は決まっています。還暦に際しては子供達にも何かしてほしいとお願いをしています。

昨年は（旧）高知大学と高知医科大学統合 20 周年を迎え記念式典が催されました。同窓会も大懇親会を開催することができました。

高知大学医学部の前身である、高知医科大学は昭和 51 年（1976 年）10 月に設置され、昭和 53 年（1978 年）4 月に 1 期生を迎えました。設置された年がスタートか 1 期生を受け入れた時がスタートかなどの議論がされました。一方、昭和 53 年（1978 年）5 月に高知医科大学開学記念式典が挙行され、平成 10 年（1998 年）10 月に高知医科大学開学 20 周年記念式典が挙行されています。そのように考えると令和 10 年（2028 年）に高知大学医学部は開学 50 周年を迎えます。

何かすると考えると、コロナ禍などでストップしていた同窓会会館（仮称）を建設する目的で募金を行っていた高知大学医学部振興基金の再始動が大きな事業になると考えています。300 人規模の講堂や各種会議室など、学内の式典や各種研究会に使用できる有意義なものになると考えています。

そのために同窓会のしなければならない一番の仕事は卒業生名簿を充実させることと考えています。個人情報には十分注意し法令を遵守しつつ、内容のある名簿を作っていかなければなりません。募金ともども皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

さて、今年度の同窓会総会は 2 年に 1 度の会長選挙もありますし、講演会には平成 22 年卒業の石井洋介先生をお招きしています。石井先生は卒業後高知県内で初期研修を行い、コーチレジを立ち上げたり、消化器外科医として大腸がんの手術などを多数手がける一方、厚生労働省勤務や「日本うんこ学会」創設など意欲的に活動。病気の予防・治療に加えて在宅医療の必要性を感じ『おうちの診療所』を開設され活躍されております。県内研修医の方々やその指導医の方も同窓会総会・懇親会にお集まりいただき、同窓生などのつながりを深めたいと考えております。

同窓会懇親会や開学 50 周年に向けた取組など詳しいことは、年 2 回発行の同窓会会報「やまもも」で告知していきますので、ホームページをご覧ください。ホームページで過去の「おこうだより」や「やまもも」もご覧になれますので、ぜひご利用ください。

ID : kms パスワード : yamamomo



高知ブランドの人材を世界に輩出！

高知大学医学部長

井上 啓史（第6期卒）

高知大学医学部は、1976年10月に高知医科大学として開学し、1978年4月には、第1期生を迎え入れることができました。1981年4月には、医学部附属病院が設置されました。そして、2003年10月には、旧高知大学、旧高知医科大学が統合し、新たな高知大学、そして高知大学医学部が誕生し、2004年4月から国立大学法人高知大学医学部に改変となりました。つまり、昨年2023年10月に、高知大学医学部は統合20周年を迎えることができ、これまでに4,000人余の卒業生を輩出しております。

このような記念すべき節目の年に、医学部長を拝命させて頂くことになりました井上啓史（いのうけいじ）でございます。小生は、高知県で生まれ育ち、1983年4月、高知医科大学医学部医学科に6期生として入学し、1989年3月に卒業後は本学医学部泌尿器科学講座を中心として、医学教育、研究開発、臨床業務、さらには啓発活動に携わって参りました。近年では、光線医療センター、次世代医療創造センター、骨盤機能センターなども兼任運営し、医工連携に基づいて研究開発を行い、高知から世界に向けて新規医療技術を発信して参りました。これらの経験を活かして、今後は医学部運営に尽力し、高知大学全体の発展に貢献する所存です。

高知大学医学部では、高知医科大学の建学の精神を受け継いだ教育理念を有しており、他人を思いやる利他の心を持って、人として正しい道を歩み（敬天愛人）、真実を大切にしつつも、新しいものを生み出そうと努める（真理の探究）という確固たる姿勢で、生涯に亘って医学を学び、医療を実践できる人間に成長して頂けるように、多様性かつ専門性に富む特色ある医学教育プログラムが用意されています。特に、先端医療学センターよる「先端医療学コース」および家庭医療学講座による「家庭医道場」、これらは高知大学医学部が新しく始めた、言わば高知ブランドと言える医学教育プログラムであり、地域のみならず全国的にも注目を浴びています。「先端医療学コース」では、最先端研究の早期体験、アクティブラーニング、異年次教育を特徴として、医学研究マインドを育成します。また、「家庭医道場」では、医学生や看護学生が地域住民や患者さん、さらには地域医療を支える医療人とも交流し実践的に地域医療を学びます。このように、高知大学医学部では、先端医学と地域医療という、社会が求める2つの大きなテーマを中心に、先進的な医学教育を推進しています。学生も教職員も、ともにワクワクできる学びの場、高知大学医学部は、これからも次世代の医学・医療を開拓し牽引する医師、医学研究者、医学教育者を育成し、高知から世界に向けて輩出していきます。

最後に、この場をお借りして、これまでの輝かしい歴史と伝統を継承してこられた卒業生のみなさまに、心よりの感謝の意を表するとともに、医学部医学科さらには高知大学の一層の飛躍を目指して尽力してまいる所存です。今後も引き続き、ご支援ご助力をよろしくお願い申し上げます。



種をまき、育てること

高知大学医学部附属病院総合診療部

教授 瀬尾 宏美

私は1978年4月に高知医科大学に1期生として入学し2025年3月に定年退職を迎えます。この間、岡豊キャンパスを離れたのは1986年9月～1990年4月の3年8か月（国内留学）と、1992年7月～1994年6月の2年間（海外留学）の計5年8か月で、残りの41年4か月をこの地で過ごすこととなります。この間、建物の改修や新築とともに、多くの緑地が駐車場になりました。しかし入学時から変わらないのが、講義棟玄関のレンガタイル張りの丸い柱で、私のお気に入りの場所です。写真は2008年に柱の前で撮影されたものです。16年の歳月を感じます。



医学部入学後、毎学年のカリキュラムも、入学してくる後輩達も新たな出会いの連続でした。いわゆる「過去問」はなく、試験勉強の頼りは同級生でした。とくに実習グループは6年間同じメンバーだったため、その結束は強かったように思います。写真は臨床実習中で、脳神経外科の医局です。（前列右から筆者、高橋敏明、後列右から、鈴木晴恵、瀬戸かおり、戦 泰和、高田 淳）



また部活動の創設にあたり、中学時代にやっていたバレーボール部を考えていたのですが、希望者が多く、「誰かバドミントン部やらんかえ？」に飛びついて、三浦清司君と2人で立ち上げました。初年度の部員は5人だったように思います。総合診療部に異動後は大脇祐治教授（病理学）から顧問を引き継ぎ、まもなく次の顧問にバトンタッチいたします。

1984年に卒業後は、老年病科（現在の老年病・循環器内科）に入局し、カテーテルインターベンションを中心に循環器の臨床に浸っていましたが、同時に臨床実習の改革に取り組んでいました。このような医学教育への興味がきっかけで1999年3月に総合診療部に異動し、医学教育の

世界に入ることになりました。当時は、我が国でも OSCE の導入が始まったばかりで、日本医学教育学会で多くの医学教育者と交流するようになり、2000年には医療面接模擬患者（SP）の養成団体である高知 SP 研究会を立ち上げました。その後、外部からも認知される団体となり、今では他大学の OSCE にも SP を派遣しています。

日本医学教育学会では本学の医学教育改革のために多くのことを学ぶ機会を得ました。2009年から理事会に参加させていただき、2024年7月で退く予定です。この間、2011年～2019年まで厚生労働省で医師国家試験の試験委員会委員（最終年度は委員長）として霞ヶ関に通い、その後も医道審議会医師分科会の医師国家試験改善検討部会、医学生共用試験部会など、継続して委員の機会をいただき、そのなかで行政機関との情報共有の重要性を痛感しました。最近では、第118回医師国家試験（2024年2月）から適用された医師国家試験出題基準において、私の分析データに基づいた大きな改革に寄与することができました。

さて1999年に戻りますが、総合診療部では毎日が新鮮な体験で満ちあふれていました。研修医時代は「どんな患者さんでも、まず診るように」と教えられてきましたので、総合診療という診療スタイルに違和感はありませんでした。ただ大学病院における総合診療のあり方については、様々なバリエーションが考えられ、自問自答を続けています。一方、総合診療や家庭医療といったプライマリ・ケア領域についての医学生や若手医師の教育は、家庭医療学講座の阿波谷教授が赴任されたことで私の方向性が明確となりました。2018年度からは新専門医制度のもとで「高知家総合診療専門研修プログラム」を立ち上げ、高知県内の指導医とともに総合診療専門医の養成に関わらせていただき、これまでに5名の専門医が誕生しています。また総合診療部で新たに漢方を学びきっかけをいただきました。他領域の医師が対応に苦慮される患者さんでも漢方が著効する事例は多くあり、総合診療との相性は抜群です。そして総合診療ではフットワークを軽くして患者さんや医療スタッフのストレスを減らすことが重要です。2020年にCOVID-19が出た際には、最初に発熱者のPCR検査を担当したのは、総合診療部と小児科でした。またワクチン接種が始まると、職域接種や集団接種のマネジメントを総合診療部が担いました。誰も経験がないからこそ、誰かがやらなければ問題解決にはつながりません。

総合診療部は院内におけるさまざまな医療環境の改善にも関わっています。1999年当時、倉本 秋教授（現高知医療再生機構理事長）から最初に指示されたことは、心肺蘇生教育の導入でした。さっそく2000年入職の研修医からACLS（現ICLS）コースを導入しました。その後、日本でもAHA（アメリカ心臓協会）心肺蘇生コース導入の機運が高まり、2004年に中四国で初となるAHAトレーニングサイトを高知で開設し、現在は日本循環器学会と契約するAHAのトレーニングコースを展開しており、この経験が医学部生や病院職員の教育にも活用されています。なお、附属病院における急変発生時の「コードブルー」は1990年当時、国立循環器病センターから大学に戻った頃に提案させていただいたのですが、当時は理解が得られず、実現したのは10年以上たっ

てからでした。2019年からは西山謹吾教授（1期生）の支援でRRS（rapid response system）を導入し、院内急変の低減に努めています。また医療安全管理（2012～2016）に続いて、2016年から臨床倫理委員会と臨床倫理コンサルテーションチームを運用しており、患者様も病院スタッフも安心して療養・業務ができる病院づくりに寄与しています。さらに2023年6月には国立大学病院初のSOGI（sexual orientation & gender identity）支援チームを立ち上げ、武内世生病院教授（6期生）を中心に活動を開始しています。

医学教育を生業とする教員として、私のキャリア後半のプロジェクトは医学教育分野別評価の受審となりました。これは大学機関別認証評価とは別に、国際基準に基づく医学部医学科の教育の評価で、文部科学省の大学改革推進事業として2013年にトライアル評価が始まり、その後、日本医学教育評価機構（JACME）が正式な認証機関として、全国82の医学部医学科を順に評価しています。高知大学医学部医学科は2023年10月に80番目に受審した大学となりました。その準備は2013年12月に受審のための委員会立ち上げに始まり、医学科の使命と卒業時に達成すべき学修成果の制定、それにつづく、新しいカリキュラムの編成、継続的改良のためのプログラム評価の体制づくりなどを行い、10年かけて準備をしてきました。この間、2003年から続くAO入試（総合型選抜）の評価と改善、2008年からTBL（チーム基盤型教育）の開発と実装という、いずれも我が国の医学教育では「高知が発祥」といえる事業を展開し、多くの情報を発信してきました。またJACMEの評価員として、私が13回、藤田博一教授（13期生）が5回、他大学の評価に参加してきました。そして実地調査では、医学科長として取りまとめ役を仰せつかり、藤枝幹也教授（1期生）、北岡裕章教授（5期生）をはじめ、多くの卒業生が関与して、無事に認定を得ることができました。7年後の二巡目受審に向けて、医学教育創造センターの藤田博一教授がリーダーとなり、黒江崇史助教（2016年卒業）とともに次のステップに進んでいます。

高校生の頃、私は県外の医学部を目指していましたが、地元で医学部ができることを知り、迷わず入学を決意しました。入学式の日、雨上がりの地面がむき出しの敷地を眺めながら、これからどのような種をまき、何が育ってくるのか、ワクワクしていた自分がいました。いくつかは記憶に残るものとして、ここに振り返りの機会を与えていただきました。今後は同窓会の一員として、自分にできることを考えていきたいと思えます。引き続き、よろしくお願いいたします。

第 118 回医師国家試験報告

医学教育創造センター

教授 藤田 博一 平成 8 年 (13 期) 卒

毎年、医師国家試験の受験支援に関して、同窓会よりさまざまなご支援をいただき、大変感謝しております。

2024 年 2 月 3 日、4 日に実施された第 118 回医師国家試験は、高知大学からは 127 名（新卒 118 名、既卒 9 名）が受験しました。冬場の受験という事もあり、コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行が懸念されましたが、出願した 127 名全員が受験することができました。一部を除き、多くの高知大学卒業生は、香川県のサンメッセ香川で受験しました。全国の合格率は、新卒 95.4%、既卒 58.9%、全体 92.4% でした。高知大学は、新卒 92.4% (109 名)、既卒 33.3% (3 名)、全体 88.2% (112 名) が合格しました。今回は残念ながら既卒生が特に厳しい結果となりました。

今年国家試験における全国の合格率は、昨年 (91.6%) よりも上昇し、この 10 年で最高の合格率 (92.4%) となりました。昨年この場をお借りして国家試験のご報告をさせていただいたとき、今回の国家試験から出題基準が変わることをご説明させていただきました。出題基準改訂の狙い通り、研修医として臨床現場に必要な知識と考え方を試される問題が多く出題されました。合格基準の推移を見てみると、相対評価で合否が決まる、必修問題を除いた一般問題及び臨床実地問題 (300 問) の得点率は、69.7% (115 回) → 72.1% (116 回) → 74.6% (117 回) → 76.6% (118 回) と年々上昇しています。必修問題 (100 問) の正答率の合格基準は 80% ですので、国家試験全 400 問をほぼ 8 割正答することが求められるようになりました。合格基準が上昇していく原因は、問題が易化したわけではなく、全国受験生の試験対策が進んでいることが大きな要因の一つと考えられます。そのため、受験生にとっては非常に辛い状況になっています。

実際に国試対策の指導を行っているとき、最初のうち全く成績が振るわなかったとしても、試験当日まで気を緩めずに学習し続け見事に合格する学生を多く経験します。しかしながら不合格となる学生は、最初模試の成績が良くても、国家試験をどこか甘く見ており、クリスマスや正月をきっかけに学習のペースを緩めてしまっていたことが不合格後の面談で判明することは珍しくありません。合否境界にいる学生は、最後の 1 か月で合否の明暗を分けていることを多く経験しますので、学生には機会があるごとに伝えていきます。国試対策は長期にわたる自分との戦いですが、最後、自分に甘くなってしまうのも人間らしい心なのかもしれません。

とはいえ、全国の大学も同じ状況ですので、学生に寄り添いながら根気よく指導を続けていきたいと思っております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆ 医師国家試験合格状況

回数及び実施年	卒業生	受験者			合格者			合格率			総順位	国立大学位
		新卒 名	既卒 名	計 名	新卒 名	既卒 名	計 名	新卒 %	既卒 %	計 %		
第77回(※)昭和59年	第1期生 97名	97	—	97	97	—	97	100.0	—	100.0	1/76	1/39
第79回昭和60年	第2期生 85名	85	—	85	82	—	82	96.5	—	96.5	8/76	5/39
第80回昭和61年	第3期生 105名	105	3	108	99	2	101	94.3	66.7	93.5	18/79	14/42
第81回昭和62年	第4期生 89名	89	7	96	83	5	88	93.3	71.4	91.7	28/80	22/43
第82回昭和63年	第5期生 107名	106	8	114	103	5	108	97.2	62.5	94.7	6/80	4/43
第83回平成1年	第6期生 101名	101	7	108	94	7	101	93.1	100.0	93.5	15/80	9/43
第84回平成2年	第7期生 91名	91	7	98	87	7	94	95.6	100.0	95.9	4/80	2/43
第85回平成3年	第8期生 99名	99	4	103	86	2	88	86.9	50.0	85.4	49/80	35/43
第86回平成4年	第9期生 101名	101	15	116	94	10	104	93.1	66.7	89.7	19/80	12/43
第87回平成5年	第10期生 101名	100	11	111	92	9	101	92.0	81.8	91.0	44/80	29/43
第88回平成6年	第11期生 95名	94	11	105	92	6	98	97.9	54.5	93.3	11/80	8/43
第89回平成7年	第12期生 101名	101	8	109	97	4	101	96.0	50.0	92.7	17/80	9/43
第90回平成8年	第13期生 82名	82	9	91	80	7	87	97.6	77.8	95.6	17/80	8/43
第91回平成9年	第14期生 95名	94	4	98	88	0	88	93.6	0.0	89.8	39/80	22/43
第92回平成10年	第15期生 101名	101	10	111	91	5	96	90.1	50.0	86.5	66/80	39/43
第93回平成11年	第16期生 97名	97	16	113	85	10	95	87.6	62.5	84.1	52/80	36/43
第94回平成12年	第17期生 86名	86	18	104	79	7	86	91.9	38.9	82.7	34/80	23/43
第95回平成13年	第18期生 92名	92	18	110	84	13	97	91.3	72.2	88.2	63/80	42/43
第96回平成14年	第19期生 97名	97	13	110	93	9	102	95.9	69.2	92.7	33/80	21/43
第97回平成15年	第20期生 89名	89	7	96	81	4	85	91.0	57.1	88.5	54/80	31/43
第98回平成16年	第21期生 101名	101	11	112	96	6	102	95.0	54.5	91.1	32/80	21/43
第99回平成17年	第1期生 98名	98	10	108	92	5	97	93.9	50.0	89.8	45/80	26/43
第100回平成18年	第2期生 99名	99	10	109	90	7	97	90.9	70.0	89.0	53/80	30/43
第101回平成19年	第3期生 90名	90	12	102	83	5	88	92.2	41.7	86.3	55/80	35/43
第102回平成20年	第4期生 88名	88	13	101	81	5	86	92.0	38.5	85.1	71/80	41/43
第103回平成21年	第5期生 90名	90	13	103	82	8	90	91.1	61.5	87.4	67/80	40/43
第104回平成22年	第6期生 90名	90	14	104	82	8	90	91.1	57.1	86.5	65/80	42/43
第105回平成23年	第7期生 97名	96	13	109	89	7	96	92.7	53.8	88.1	55/80	32/43
第106回平成24年	第8期生 93名	92	15	107	87	9	96	94.6	60.0	89.7	51/80	25/43
第107回平成25年	第9期生 88名	88	12	100	70	6	76	79.5	50.0	76.0	79/80	43/43
第108回平成26年	第10期生 101名	99	22	121	89	16	105	89.9	72.7	86.8	73/80	42/43
第109回平成27年	第11期生 100名	100	19	119	94	8	102	94.0	42.1	85.7	76/80	42/43
第110回平成28年	第12期生 109名	109	15	124	102	7	109	93.6	46.7	87.9	71/80	40/43
第111回平成29年	第13期生 115名	114	15	129	107	10	117	93.9	66.7	90.7	36/80	23/43
第112回平成30年	第14期生 104名	104	13	117	99	7	106	95.2	53.8	90.6	49/80	25/43
第113回平成31年	第15期生 112名	112	10	122	105	6	111	93.8	60.0	91.0	40/80	19/43
第114回令和2年	第16期生 102名	101	11	112	96	6	102	95.0	54.5	91.1	63/80	33/43
第115回令和3年	第17期生 125名	125	10	135	118	4	122	94.4	40.0	90.4	57/80	32/43
第116回令和4年	第18期生 109名	109	14	123	102	5	107	93.6	35.7	87.0	77/80	42/43
第117回令和5年	第19期生 124名	124	14	138	121	8	129	97.6	57.1	93.5	37/82	17/43
第118回令和6年	第20期生 118名	118	9	127	109	3	112	92.4	33.3	88.2	76/82	41/43
合計		4,054	451	4,505	3,781	258	4,039	—	—	—	—	—

〔第118回医師合格率〕 全 国：92.4%（前年：91.6%）
うち新卒：95.4%（前年：94.9%）

高知大学医学部同窓会ゴルフコンペのご案内

高知大学医学部医学科 OBOG の皆様におかれましてはご清祥のことと存じます。

例年は8月第1日曜日に開催してきましたゴルフコンペですが今年は9月15日に土佐カントリークラブで行うことになりました。9時スタート 10組の予定で、8時20分までの受付 8時40分開会式 会費は4,000円となっています。今回の幹事は9期の北岡謙一と橋田正継が務めさせていただきます。昨年のように以下のサイトから参加者を募っていますのでご覧下さい。入力頂く際にはお名前と何期かをお願いします。組み合わせについて同組を希望する場合は応需致します。組み合わせ、天候不順による急な中止、コンペ後の結果報告や写真などもこのページからご確認頂けます。もし参加有無の公表を控えたい場合や組み合わせのご要望などなにかございましたらファックス 088-872-0262 (町田病院) か hashidamynk@me.com へメールをお願いします。締め切りは8月31日を予定していますが、人数が40名に達した場合には締め切ることがございますので、お早めにwebページをご覧下さい。同じ施設やお近くに同窓生の先生がおいでたら、是非この情報を共有してお誘い合わせ頂きたいと存じます。



<https://chouseisan.com/s?h=07f6e250971b427dbf067ff9184fb2b0>



令和5年度同窓会ゴルフコンペ集合写真(黒潮カントリークラブ)

《事務局からのお知らせ》

会費納入のお願い

同窓会会費は終身会費で5万円です。未納の方は、下記口座への納入をお願いいたします。

【郵便局からのお振込み】

口座番号:01680-2-130874 高知大学医学部医学科同窓会

【他銀行からのお振込み】

店名 : 一六九店 預金種目 : 当座

口座番号 : 0130874 高知大学医学部医学科同窓会

参考までに、令和5年度同窓会の活動実績は次のとおりとなっております。

[在学生への支援]

- ・医学部学生生活支援事業への補助(経済的に困窮している学生に対する支援金)
- ・医学科教育設備への支援 ・医師国家試験対策経費への補助 ・白衣の贈呈(4年生臨床実習開始時) ・新型コロナウイルス感染対策経費 ・卒業試験対応への支援 ・卒業記念品の贈呈など

[卒業生への支援]

- ・同窓会会報(やまもも)や「おこうだより」の送付 ・高知県内での卒後研修への支援 ・OBとの懇親会及び進路相談 ・学会等主催への支援事業 ・県外支部会への支援(感染防止のため中止) など
- [高知県内での研究活動への支援] ・学内研究発表会(KMS Research Meeting)での同窓会賞

【医学科同窓会会員の皆さまへ】団体勤務医師賠償保険のご案内

高知大学医学部医学科同窓会では、勤務医師賠償責任保険を団体として損保ジャパンと契約しています。現在、約220名の加入者があり、保険料について団体割引15%(令和6年度)の適用を受けております。

●団体割引は、本団体契約の前年のご加入実績により決定しています。次年度以降、割引率が変わることとなりますので、あらかじめご了承ください。

●この案内は勤務医師賠償責任保険の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては、下記取扱代理店または引受保険会社営業店までご連絡ください。

<ご参考>

補償内容(保険金額)と保険料

契約型	医療上の事故		保険料
	対人1事故につき	対人1年間につき	
100型	10,000万円	30,000万円	43,206円
200型	20,000万円	60,000万円	54,791円
300型	30,000万円	90,000万円	66,300円



【取扱代理店】 株式会社はらだ保険企画 〒780-0063 高知市昭和町10番5号

TEL : 088-823-7152 携帯 : 090-4780-6362

メール : harada-hokenkikaku@n1003905.insurance-agt.ne.jp

【引受保険会社】 損害保険ジャパン株式会社 高知支店高知支社

〒780-0870 高知市本町2-1-6

(承認番号 : SJ23-11222)

※勤務先や自宅などが変更となった場合は、同窓会事務局まで本用紙でご連絡をお願いいたします。

同窓会高知大学医学部医学科同窓会事務局 行

FAX : 088-866-0065

メール : dosokaij@kochi-u.ac.jp

【勤務先や自宅などが変更となった場合は、本用紙でご連絡をお願いいたします。】

ご氏名	会員番号	S・H	年卒
勤務先名			
勤務先住所	〒 TEL		
自宅住所	〒 TEL		
その他連絡先（実家など）	〒 TEL		
メールアドレス			
【ご意見等】			

○広告協賛金のお願い

広告協賛金について次のとおりご案内をさせていただきますのでご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

【広告の掲載】 : 同窓会会報「やまもも」

【広告のサイズ】 : ①A4 1/4頁 ②A4 1/2頁 ③A4 1頁

【申込方法】 : 高知大学医学部医学科同窓会事務局「メール:dosokaij@kochi-u.ac.jp」
にお申し込みください。改めて事務局よりご連絡申し上げます。

医学部附属病院再開発について

ABOUT REDEVELOPMENT

高知大学医学部附属病院は昭和55年に建設されており、当時の医療構想で造られた本院は構造的に狭隘かつ老朽化が目立ち、先端医療の実践や優れた医療人の育成に支障をきたす状況にあるため、新しい時代にマッチした医学部附属病院にするため再開発を行います。平成24年度～26年度に新病棟(第二病棟)の建設が完了しており、今後令和10年度までの間に新病棟の建設及び既存建物の改修を行います。

「地域に密着した先端医療の推進と医療人の育成」

